



海南消防署で防災について学習しました

栄喰小学校4年生



海陽町議会だより

6月定例議会

発行 海陽町議会 TEL (0884) 73-4164
 編集 広報編集特別委員会 E-mail gikai@town.kaiyo.lg.jp

Vol. **21** (2011.8)

おもな内容

第2回定例会	2P
新しい議会構成	4P
一般会計予算の状況	5P
行政報告	6P
一般質問	7P
委員長報告	12P
議会の動き	14P

第2回定例会

議案の審議

平成23年第2回定例会は、6月13日開会、町長より次の13議案が提出され審議の結果、原案どおり可決され、16日閉会した。

承認関係

議案第41号 専決処分の承認について

注釈	↑	増額
↓		減額

平成22年度海陽町一般会計補正予算(第5号)

480,087千円↑

平成22年度海陽町国民健康保険特別会計補正予算(第4号)

116,115千円↓

平成22年度海陽町後期高齢者医療特別会計補正予算(第3号)

3,413千円↓

平成22年度海陽町介護保険特別会計補正予算(第3号)

9,357千円↓

平成22年度海陽町浅川公共下水道事業特別会計補正予算(第2号)

1,528千円↓

平成22年度海陽町海部公共下水道事業特別会計補正予算(第3号)

3,124千円↓

平成22年度海陽町宍喰公共下水道事業特別会計補正予算(第3号)

2,961千円↓

平成22年度海陽町神野農業集落排水事業特別会計補正予算(第1号)

780千円↓

平成22年度海陽町川西農業集落排水事業特別会計補正予算(第3号)

2,220千円↓

平成22年度海陽町日比原農業集落排水事業特別会計補正予算(第2号)

1,300千円↓

平成22年度海陽町漁業集落排水事業特別会計補正予算(第1号)

1,038千円↓

平成22年度海陽町川西簡易水道事業特別会計補正予算(第1号)

503千円↓

平成22年度海陽町海部簡易水道事業特別会計補正予算(第2号)

6,800千円↓

平成22年度海陽町中里簡易水道事業特別会計補正予算(第1号)

438千円↓

平成22年度海陽町川上簡易水道事業特別会計補正予算(第2号)

703千円↓

平成22年度海陽町鉄道経営安定基金特別会計補正予算(第1号)

1,540千円↓

条例関係

議案第42号 海陽町税条例の一部を改正する条例

(東日本大震災に係る特例等)

議案第43号 海陽町海洋自然博物館の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例

(使用料金の見直し等)

承認関係

議案第44号 辺地に係る総合計画の策定について

(今後5年間の辺地総合計画策定)

議案第45号 繰越明許費に係る繰越計算書の報告について

議案第46号 建設改良費に係る繰越計算書の報告について

議案第47号 平成23年度海陽町立図書館移動図書館車両購入契約について

・契約金額

1千0,772,500円

・契約の相手方

谷崎自動車整備工場 代表者 谷崎長一

予算関係

議案第48号 平成23年度海陽町一般会計

補正予算(第1号)

199,736千円↑

議案第49号 平成23年度海陽町国民健康保険

特別会計補正予算(第1号)

4,275千円↓

議案第50号 平成23年度海陽町後期高齢者医療特別会計補正予算(第1号)

療特別会計補正予算(第1号)

4,331千円↓

議案第51号 平成23年度海陽町介護保険特別会計補正予算(第1号)

別会計補正予算(第1号)

478千円↓



新しくなる図書配本車「まつかぜ号」

議案第52号 平成23年度海陽町上水道事業会計補正予算(第1号)

1,500千円↓

議案第53号 平成23年度海陽町海南病院事業会計補正予算(第1号)

1,593千円↓

第2回臨時会

平成23年第2回海陽町議会臨時会は、5月20日開会、次の議案が提出され、審議の結果原案どおり可決された。また、副議長長の辞任に伴い選挙が執行された。

承認関係

専決処分の承認

海陽町国民健康保険条例の一部を改正する条例

海陽町国民健康保険税条例の一部を改正する条例

人事関係

海陽町教育委員会委員の任命について(同意)

住所 海陽町浅川

氏名 八幡 節子

副議長の選挙は指名推薦により次のとおり決定した。

副議長 三浦 茂貴

就任あいさつ



副議長
三浦 茂貴

5月臨時議会におきまして第6代副議長に就任させて頂きました。

議会の果たすべき役割を十分認識し、更なる町の活性化、そしてチェック機能のより一層の充実に努めてまいります。

今後とも町議会の活動や町政について、ご理解とご協力を頂けますようお願い申し上げます。

議長 白濱輝二

副議長 三浦茂貴

総務常任委員会

委員長 戸田眞理子

副委員長 高畠武夫

委員 西山幹男

〃 白濱輝二
〃 長岡秀一郎

文教厚生常任委員会

委員長 南谷輝幸

副委員長 長尾正大

委員 富田一廣

〃 池下嘉郎
〃 原ひろみ

産業建設常任委員会

委員長 見吉政貴

副委員長 叶岡徹

委員 島崎勝弘

〃 三浦茂貴
〃 小山慎

議会運営委員会

委員長 島崎勝弘

副委員長 長岡秀一郎

委員 見吉政貴

〃 南谷輝幸
〃 戸田眞理子
〃 三浦茂貴

議会広報編集特別委員会

委員長 三浦茂貴

副委員長 池下嘉郎

委員 叶岡徹

〃 原ひろみ
〃 小山慎
〃 長尾正大

監査委員

高畠武夫

国民健康保険運営協議委員会

南谷輝幸
富田一廣
議長 長尾正大

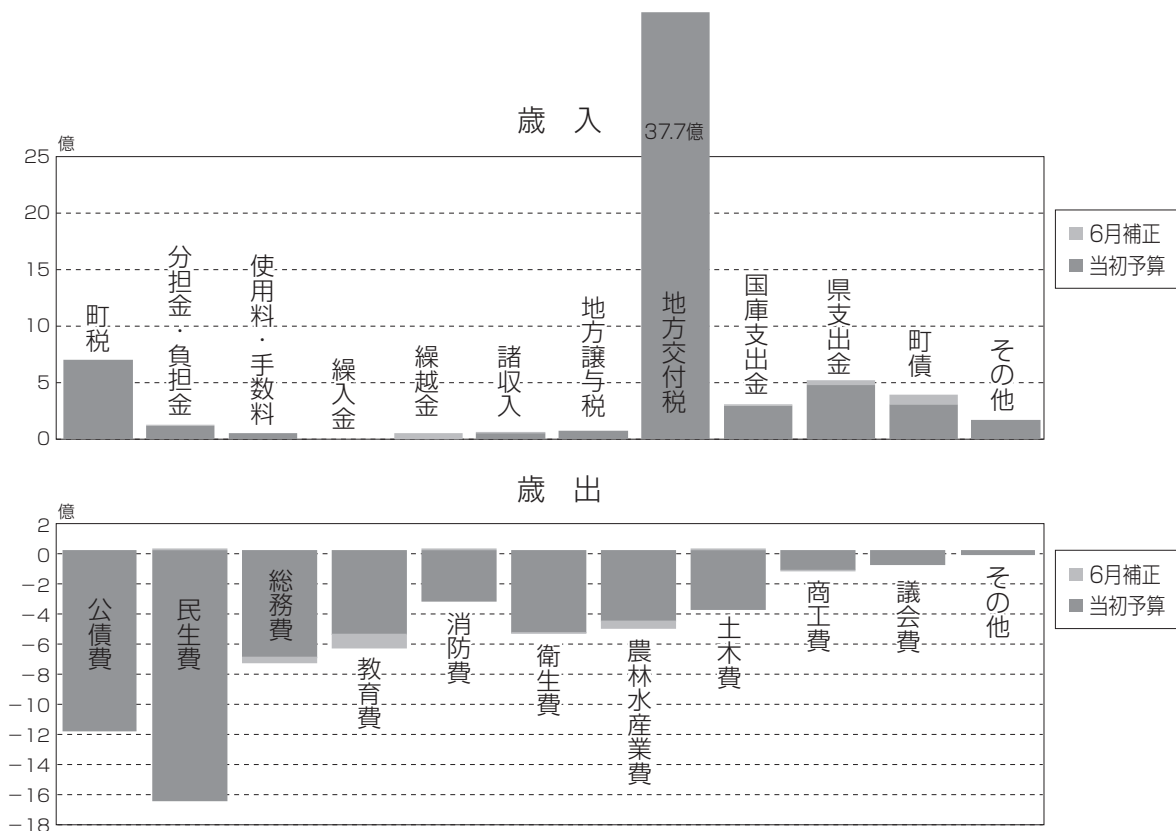


委員会室

体育館 耐震補強工事決まる！

(浅川・川上・海部町民体育館)

平成23年度 一般会計予算の状況



歳入	補正前	6月補正	構成比率
町税	693,472,000	0	11.2
分担金・負担金	115,360,000	352,000	1.9
使用料・手数料	53,029,000	0	0.9
繰入金	350,000	0	0.0
繰越金	10,000,000	42,099,000	0.8
諸収入	47,166,000	10,200,000	0.9
地方譲与税	71,000,000	0	1.1
地方交付税	3,767,088,000	0	60.8
国庫支出金	292,127,000	13,443,000	4.9
県支出金	470,296,000	50,142,000	8.4
町債	307,400,000	83,500,000	6.3
その他	165,712,000	0	2.7
合計	5,993,000,000	199,736,000	100.0

歳出	補正前	6月補正	構成比率
公債費	1,166,851,000	0	18.8
民生費	1,625,152,000	▲1,709,000	26.2
総務費	702,531,000	42,769,000	12.0
教育費	543,090,000	103,870,000	10.4
消防費	335,879,000	▲9,169,000	5.3
衛生費	534,960,000	7,694,000	8.8
農林水産業費	456,050,000	57,638,000	8.3
土木費	380,720,000	▲1,887,000	6.1
商工費	126,664,000	530,000	2.1
議会費	92,324,000	0	1.5
その他	28,779,000	0	0.5
合計	5,993,000,000	199,736,000	100.0

※歳入のその他内訳

財産収入	39,022,000
利子割交付金	2,820,000
配当割交付金	1,000,000
株式譲渡所得交付金	520,000
地方消費税交付金	89,050,000
自動車取得税交付金	12,900,000
地方特例交付金	18,900,000
交通安全特例交付金	1,500,000
寄付金	0

※歳出のその他内訳

災害復旧費	12,436,000
予備費	12,933,000
諸支出金	3,410,000

行政報告



町長 五軒家憲次

べきで、強力に要求し、要請活動を重ねていかなければならない。

津波、地震は天災だが放射能漏れは人災。政府と東京電力が責任を持つてしなければいけない。

5月4日、全国紙の一面に奇跡の一本松、という記事が出ていた。陸前高田市の高田松原約2kmで、たった一つ松が残った。海陽町にも4kmの大里松原がある。住民の安全安心のための保全に全力投球している。視察に行った5月25日の最終にその松の木を見たが、変色して枯れているようであった。ボランティアが再生し、生き残すという記事が出ていたが、是非とも残ってほしいと思っている。

間見させて頂いた。現地はリアス式海岸で浅川港のようなV字型ではなく地形的に大きく違う。全体的に海面と陸地の標高差が少なく、埋め立て地などの液化化、地盤沈下という連鎖反応が起こったのではないか。これは今後の勉強課題である。そして今回、**高速道路も避難場所**、まさに命の道であることが立証された。私も30年前後、国交省に対して国道55号についてやってほしいと言いつつ続けてきたが、費用対効果を錦の御旗に掲げてきた国交省。これは反省す

こうした中、命がけで住民の生命を守った役場職員もいた。南三陸町の女子職員「津波が来ておられます、早く高台に逃げて下さい」と繰り返し送りながら津波に巻き込まれなくなった。心からご冥福をお祈りしたい。発生してからもう3ヶ月、普通ならば復旧・復興の流れのはずが、がれきの撤去もそのままというのが現状。日本は明治維新、そして戦後2回の奇跡を起こしてきた。強い心、絆を持って再生していかなければいけない。

我が町の減災・防災対策はどうするのか。公は



防火服を体験する児童（海南消防署）

的確な情報を流す、住民は迅速に逃げる、これしかない。今回の現場を見て私が言い続けてきたことは間違いでなかったと再確認をした。

地震津波観測監視システムの設置について、独立行政法人海洋研究開発機構と協議に入っている。平成22年に竹ヶ島沖に設置されたGPSよりはるかに精度は高い。漁業組合との交渉もあるので、協議を進めて行きた



DMV（デュアル・モード・ビークル）
JR北海道ホームページより

道牟岐海南線。やれやれ峠から小川谷へ走っているが、それを玉笠の町道と交換してほしい。3つ目は海部川下流の河川の**護岸補強、耐震化**を早急にしてほしいと以上3点県に対し要望した。

DMV（デュアル・モード・ビークル）。運用面からするとメンテナンスが非常に安く、バリアフリー的なサービスも提供できる。経費面では今走っている車両が約1億3千万円、DMVなら約3千万円。保守の経

ANA（全日空）が漁火等の宿泊施設を、四国指定施設にしてはどうかという事で視察に来られた。町としても中途半端なことはしたくないが、石橋を叩きながら進んで行きたい。

6月2日、県に要望書を持って行った。1つ目は**県道芥附海部線**。やるということの方付けをしてほしい。2つ目は

東日本大震災後の海陽町の 防災の取り組みは？



長尾 正大 議員

問 我が町においてもこれまでの被害予想を超える地震・津波に対応できる防災計画を考え、見直していければいいと思う。これまで想定されていた被害予想が変わり、また地域ごとの新たな課題や対策の検討などは、どの程度なされているのか。

答 五軒家町長 全員の通告書を見ると同じ主旨が多いので、自分の防災についての考え方、方向付けを述べさせてもらう。

備えあれば憂いなしという言葉があるが、備えてなお憂うというのが自然災害に対する行政の基本姿勢である。危機管理とは自分の命は自分で守る自助、お互いに助け合う互助、公的機関が行う

り通したいと強い決意を持っていて。

答 片田企画防災課長

現在の本町の被害想定の基本となっておるものは、中央防災会議及び徳島県が独自に作成した津波浸水予測調査・地震動被害想定調査をもとに作成をしている。

また、県による被害想定の見直しをすすめ早急に提示することを要望した。この結果を受け、県内の市町村は防災計画等の見直しがなされ、学術的・科学的な裏付けを持った資料を住民の方に提供できると思う。また、これにより具体的な課題や対策が明らかになり、ソフト・ハード面の対策

公助。公助は人命救助・減災対策・避難誘導・緊急治療・緊急輸送、この5つだと考えている。そしてBCP（業務継続計画）。災害後、円滑に事務が進められる計画を早く樹立したい。寄付文化というのが話題に出てきている。坂本九の「上を向いて歩こう」を歌うと、一曲一円を三陸地域の子ども達に寄付される。また、ふるさと納税が岩手、宮城、福島で、この3ヶ月の納税が昨年の納税より100倍に上がっている。寄付文化が一過性でなく続いてくれたらという気がしている。

本町は南海地震、保勢の大崩壊の経験者でもある。その教訓を肝に銘じ、住民共々やるものはや



ブルーマリン避難訓練

を講じていきたいと考えている。ただし、災害想定が出されるには、ある程度の期間が必要となるので、まず、公民館、自主防災会単位で会を開催し、地域ごとの課題や対策を検討している。避難路の整備など、必要なハード対策は進めていくが、ハード面の対策には限界があり、町民に迅速な避難をしてもらうことが重要であるので、防災教育・避難訓練等のソフト面の対策を充実させる事が必要だと考えている。

問 国や県の想定される災害の見直しの後、これまで行われてきている防災研究会、研修会等に新たな検討を加えていくことはあるのか。

答 企画防災課長 防災研修会等については、東日本大震災後、住民の方々も非常に関心が高く、南部防災館及び南部県民局の研究会・起震車体験・出前講座も申し込みが増え、学校・幼稚園・保育所・各種団体での講習会を実施している。また、すでに自主防

災会において自主的な研修・避難路の確認が行われたところもある。このように、地域ごとの地形等がそれぞれ違っており、まず、各自自主防災会単位で研修・避難路の確認等ができるよう啓発に努めたい。

釜石の奇跡といわれている、浸水想定区域外であった中学生が、小学生の手を引いて高台へと避難したことが報道された。想定だけを信じるのではなく、その状況下で最善な行動をとり、率先して避難することを防災教育として徹底できていた結果といわれている。本町においても、今後も一人ひとりの防災力を高めることができるよう、研修会等を実施したい。

問 各地区の自主防災会の会議なり、町が新たに取組む防災活動、計画など従来の活動も含め、それらを知らせる広報活動は啓発にも効果があり、有意義であると考え、広報活動についてはどう考えているか。

答 企画防災課長 現在、各地区で公民館・自主防災会の代表者の方にお集まりいただき、

研修会また、各自自主防災会の活動報告を含め意見交換会を実施・計画している。その中で、各分館・町内会・自主防災会単位で、避難場所の確認や研修会を開催することを依頼している。これらの会議の中で、要望も出されており、行政がしなければいけないこと、また自主的に行えることも整理したなかで、できるものから早急に対応できればと考えている。町広報誌等を、積極的に活用し、広報、啓発に努めたいと考えている。

問 海陽町の防災を取りまとめる町の役割として地域住民と県、教育委員会、自主防災会などに対し、どのように関わっていくのか。

答 企画防災課長 すでに、自主防災会により避難場所として、また学校施設の利用についても確認がなされたところもある。また教育委員会にも自主防災会の避難訓練について、学校への協力もお願いしている。町が県、教育委員会、自主防災会と連携し、要望、意見をまとめ、情報共有ができるよう努めたい。

7

災害に強い町づくり



原 ひろみ 議員

どのような災害がおきても守るべきは住民の皆様の命である。

今、防災対策を一から見直し、災害に強い町づくりを住民、行政が共に進めなければならない。



浅川観音庵の避難所確認

答 片田企画防災課長
避難路・避難所の整

現在の自主防災組織の整備率はどの程度か。定期的に会合を持ち、地域の要望を話し合っているのか。定期的に防災教育や防災訓練が望ましいが、町の防災対策はどうか。

備については、これまで現在の想定に基づき継続的に取り組んできたところで、避難路には、太陽光を利用した避難誘導標識や照明、バッテリー式の無停電照明装置も整備されている。

現在東北大震災を受け、国・県において想定見直し作業が進められているところであるが、新たな想定が示されたときには、現状の施設の状態を再度点検し、新たな想定に基づいた施設整備を継続的に進めるとともに、ご指摘いただいた事項についても十分検討したいと考えている。

次に、自主防災組織の整備率については、平成21年度末に100%となっている。「自主防災組織」というように地域の自主的な活動が基本であり、自助・共助・公助といった役割を明確にし、この組織が災害時に有効に機能するよう様々なサポートをしていきたいと考えている。

防災教育・訓練については、毎年12月、津波避難訓練を定期的の実施している。学校においても年間行事として避難訓練が組み込まれており、今後も継続して防災教育・訓練を重ねていくので、皆様方にもご理解・ご協力をお願いしたい。

救命胴衣の配置

問 海陽町の未来を担う子ども達の命を守るために、体温低下、流木から身を守る効果のある救命胴衣とヘルメットを各学校、教職員へ配置してはどうか。消防隊員や町民への購入補助金制度の導入をして頂けないか。

企画防災課長

救命胴衣やヘルメットの学校整備については、その効果や保管場所等について十分検討していきたい。

また、町民の購入に対する補助金であるが、防災グッズの準備は、基本的には自助にならうかと

思われる。各人で必要なものをそれぞれが準備していただきたいと考えている。

問 学校施設は耐震工事もできており、住民のための応急的避難所となるプールの水を飲用水に変えられる浄水装置、洋式トイレへ改修、非常用発電機搬入、食糧備蓄倉庫、アンテナ配置など、非常に十分機能できるように取り組みをしてほしいが。

企画防災課長

学校施設については、現在一次、二次の避難所として指定しており、重要な施設と位置づけている。

ご指摘いただいた事項については、新たな想定に基づき、検討したいと考えている。

被災者支援システム

導入運用

問 津波により町役場も破滅的被害を受け、戸籍や住民票を流出し、罹災

証明書を発行する作業の円滑化を図るためにこのシステムの導入が必要。申請準備状況はどうなのか。住民データが流失してしまわないようCDROM等に複製保存し、県外遠隔地に保存してもらう対応が必要。県外委託はしているのか。

企画防災課長

被災者支援システムは、(財)地方自治情報センター(LASDEC)が提供しているシステムで、地方公共団体が被災・復旧復興業務を遂行する上で有効なシステムであり、利用に向けて環境整備を進めているところである。

このシステムを利用するために、その基礎となる被災時の住民データが必要となる。役場庁舎の被災も想定し、住民記録をいかに保存していくかが課題であり、共通の課題である沿岸市町で対応策を検討することとなっている。

今後の防災計画



小山 慎 議員

問 海陽町地域防災計画の中で、地震津波被害に関する地震災害計画があるが、この計画の想定規模はどの程度か。また、本町が津波被害を受けた場合、電源関係、予備電源を含めて、浸水被害の対策は大丈夫か。

答 片田企画防災課長
本町の防災計画また浸水想定区域については、中央防災会議でのデータをもとに徳島県において津波浸水予測調査・地震動被害想定調査を行ったものが基本となっている。想定は、マグニチュード8.6、最大震度は6強。浸水予測範囲は、東南

海・南海地震断層モデルと1854年安政南海地震の2つのモデルでもっとも広い範囲を浸水予測範囲としている。

地震動被害想定調査は古い木造住宅割合が全国平均より高い海岸沿いの堤防が液状化により、機能しないおそれがあること等を加味している。

庁舎の電源については、自家発電装置を2階に移転している。

問 津波避難タワーが本町でも2カ所整備されている。防災計画の見直し後、今の施設の津波浸水想定を上回った場合、対処する予定はあるのか。

またその対策案はどういうものか。

答 企画防災課長
避難タワーのかさ上げについては、基本的には現在の施設を補強改良しかさ上げできるとのことであるが、費用面等を考慮し、検討していきたい。

問 各戸に配付している防災のしおりの中で、地震対応になっている避難所がある。地域の避難所等は耐震化ができていない施設が多くある。この場合、地震対応の避難所として指定してもいいのか。

答 企画防災課長
避難所の耐震性等を考慮し、避難所の指定、変更も含め検討したい。

問 各地域ごとに管理している公民館や集会所などの中には、老朽化が進んでいる建物が多数見受

けられる。建物の修繕箇所によっては多額の費用が必要になるが、地域によってはその費用を賄えない地域も存在する。現在の修繕費の補助体制は。

答 畦内教育次長
海陽町公民館類似施設整備費補助金交付要綱により対応している。10万円以上の修繕工事が補助の対象で、工事の50%、300万円を上限としている。災害復旧の場合はその状況に応じて協議し、補助を決定する。

問 地域の高齢化で、公民館活動は年会費等で賄っているのが現状である。選挙時には投票所となる特別な位置づけの施設などに対しては修繕費の補助の見直し、地域負担率の軽減を要望したい。

答 教育次長
特別な位置づけの施設はどのようなものがベーストか、今後検討課題として。

水資源の 条例化について

清流海部川は、全国で最も水がきれいな川36本の一つと認定を受けている。

問 本町の水に関する条例として、海部川清流保全条例が制定されているが、水資源そのものに触れた条例ではない。良好な水環境を維持・保全し将来へ引き継ぐため、ま

た海外資本の森林買収問題など水資源を保護する観点から、水資源保全条例の制定を要望したい。

答 五軒家町長
海部川全体をカバードきる条例が清流条例。支流も全部含まれている。住民も行政も一緒に、清流を守っていかないといいけないという意欲のあるものでなくてはならない。水資源条例が部分的なものであれば意味がない。



清流海部川

防災の見直し



池下 嘉郎 議員

今回の東日本大震災は想像を絶する大惨事であった。今後の防災の教訓となった。今後発生すると予想される南海・東南海・東海地震に備え、見直しが必要と思うが対策は。

きることが最善であり、いろいろなどころから避難路が確保できることに努めたい。

問 避難路が急傾斜の場合、高齢者は大変であるので早く避難できる対策。また道幅が狭いと多くの避難者が殺到した場合、前がつかえると動けなくなるので、その対策を考えよ。

避難路に関して、急峻な避難路や、道幅の狭い避難路等の箇所に関しては、可能な限り整備を行っていききたい。また、改良が困難な避難所等については、新たな避難ルート等の整備等も検討していきたい。

答 片田企画防災課長

避難場所については、より高いところが確保で

問 避難タワーの増設は今後必要である。現在設置されているタワーが、今後の津波に対処できるのか。

答 企画防災課長

避難タワーは、宍喰地区、浅川地区の2箇所に整備済である。宍喰避難タワーは、ステージの高さ、9・74m、現在の浸水予想高8.7m。1mほど高く設定している。浅川地区避難タワー、ステージの高さ、9m、現在の浸水予想高7.4m。1.6m余裕を持った高さに設定。今後新たな浸水高が示されれば、タワーの増設等も検討したい。

問 防波堤の高挙げは？ 今回の津波で浅川港で見張っていたが効果はあったと思う。今後、国、県に要望すべきと思うがどうか。

答 東谷建設課長

浅川の防波堤は津波を受けてもすぐに倒壊しない、粘り強い構造物になるよう嵩上げ、補強等の対策を要望する。その他の防波堤については県により、液状化による沈下対策等の補強工事を進めていく。

問 川を逆流してくる津波であるが、河川の地形により差があると思うが、安心安全のため、国の調査結果をふまえ、国、県に要望すべきと思うがどうか。

答 建設課長

河川の堤防高は津波高さによる想定はされていない。地震による堤防の沈下等の検証とその対策を迅速に進めるよう、国・県に対し要望していきたい。

問 津波でなく、地震・サル・シカによる道路上からの落石に対し、早急な対策を考えよ。

答 建設課長

その都度対策を考え対応しているが、抜本的な対策工事は規模や延長、膨大な山間部を抱えているので難しい状況である。

問 豪雨、台風で山が崩壊し土石流となって川に流れ、川床が上がるので



出役による除草作業で、地域の道路を維持している平井地域の方々

河川に近い家屋は危険であり、早く避難できる対策を。

答 五軒家町長

土砂災害等の警戒情報の周知が重要であり、防災無線等を利用し、早め早めの警戒情報周知に心掛けたい。

建てる企業が来てくれないと話にならない。不確定なものに対して先に投資はできないし、財源的にも許されないと聞いている。

問 今回の震災で国・県は減災に積極的に取り組むようである。町内は津波が発生してから10分まで到達すると想定されてい

る。早く避難できるビルが必要である。私はいつも若者の定住なくして町の発展はないと思っている。この機会をチャンスととらえ定住ができるよう、働く場のビル兼用として国が推奨し、特別な助成が得られ、また軌道にのるまで税をかける条件で企業を誘致できないか。

簡単には箱物を建てることはできないと承知しているが、県南の発展、過疎の町の将来を考え、国・県に働きかけ、今一度考慮してほしい。

自主防災組織として 何をすべきか



叶岡 徹 議員

問 避難訓練、防災研修など防災課や南部防災館がよく協力してくれているが、訓練の参加者が少ない。今後どうあるべきか、またどうすればいいか。また大里松原の防潮堤の砂の堆積を除去しないのか。

答 五軒家町長 自主防災組織は大いにやって頂きたい。防潮堤の砂は生き物。ある時は無くなり、ある時は増える。浸食され、県に要望したこともあるが、そうしている間にい

問 私が10年来必要と言ってきた穴喰海部間の国道55号に代わる道路は、行政報告で必要と説明されていたが、今後の取り組みは。

答 町長 今回の震災で高速道路に上がって助かったというところから見直して欲しい。要請する最後のチャンスである。

問 大里地区の避難場所

として海部高校等、いつでも屋上に上れるようにしてほしい。

答 町長

事態が起これば必ず門を開けておく。開いていなければ壊しても結構だと校長と話をしている。

問 自主防災会で海拔表示をしているところもあるが、防災課の協力はどのようにするのか。

答 片田企画防災課長 できることはやって頂き、無理なところは行政も対応していきたい。

問 義援金を町から500万円拠出するが、渡す時期はいつ頃か。どこに渡すのか。

答 町長

9月末までに義援金、支援金として渡したい。

など地元の活性化に取り組んでいる。

問 サーファーがリピーターとして、海部の海に來てもらえるようにするにはどうすべきか。シャワーの増設、駐車場の拡大など、町としてどのように取り組むのか。

答 町長

スポーツは礼に始まり礼に終わる。次第にいい方向に進んでいるが、やるべきという決断までには至っていない。お互いに切磋琢磨して磨いていきたい。

が展開される中で、いち早く交通マナーアップ宣言事業所として宣言するなど、職員の交通ルールの遵守と交通マナーの向上に取り組んでいきたい。

問 職員の交通手段として阿佐東線、町営バス等の活用を考えてみるべきではないか。

答 町長

いいと思うが自主性を重んじ、命令すべきでないと考ええる。

問 町有自動車の町名表示が旧町のままのものが多く見られる。合併して5年も経ちおかしと思うがどうするのか。

答 総務課長

安価な方法で対応できるものは、早急に表示変更していく。



大里松原

地域活性化に ついで

今一番多く来られているのはサーフィン関係の人たちであると思う。食事、買い物等、週末になると多くのサーファーが町のいたる所で見られる。また地元のサーファーも同好会をつくり、清掃

答 浦川総務課長 平成23年度交通マナーアップ推進月間県民運動

常任委員会委員長報告

総務常任委員会

委員長 戸田眞理子

6月13日開会。定例会提出議案の所管5件についての説明を受け、陳情書及び意見書については協議を行った。

平成22年度一般会計補正予算は、歳入歳出それぞれに4億8008万7千円を追加し、7億3943万7千円とするもので、基金費以外は全て減額補正であった。

辺地に係る総合整備計画の策定については、平井・小川・神野・若松・相川・船津・塩深の7カ所を対象で、住民福祉や

利便性の向上等を図るための5カ年計画で、人口減で該当外となった集落への今後の対応についての課題を提起した。

平成23年度一般会計補正予算は、歳入歳出に1億9973万6千円を追加し、61億9273万円とする。うち東日本大震災被災地への職員派遣旅費188万6千円、被災自治体支援金及び義援金500万円、DMV（デュアル・モード・ビークル）の実証運行に関わる阿佐東地域公共交通懇話会負担金640万円、フルマラソン大会運営費2739万9千円等が主だったものである。

浅川カミノ地区より陳情の避難道確保の件は、

現地を確認の上で協議の結果、防災、減災上の観点は認識するが、同様の場所は他にもあることや、現在、旧浅川小学校跡地は、被災地児童の集団受

け入れ施設として表明していること等を踏まえ、今後については関係各課で検討することとし開会した。



浅川地区津波避難路巡視

文教厚生常任委員会

委員長 南谷 輝幸

6月14日開会。議案及び陳情・要望等につき審議。

専決処分の承認について、一般会計・海陽町国民健康保険特別会計・後

期高齢者医療特別会計・海陽町介護保険特別会計の補正予算は共に、平成22年度事業実績・精算による減額予算。平成22年度末の国保基金は1億850万円。宍喰診療所の財政調整基金に1千万円を積立て、残高1億1千万円に。

平成22年度海陽町介護保険特別会計の基金残高は3050万円。平成24年度に見直されるだろう介護保険料について、負担増しが予想される。委

員より、医療費削減のため、検診の受診者増、またジェネリック医薬品使用の努力をしてほしいとの意見が出た。

平成23年度海陽町立図書館移動図書館車両購入契約は、22年度の思いやり予算繰越分で、1077万2500円で契約。

平成23年度海陽町一般会計補正予算について、教育委員会関係の繰越し、旧三校の町民体育館耐震補強工事で、設計管理委託料を含め工事費9680万円。

平成23年度海陽町国民健康保険特別会計補正予算は、人事異動による人件費の減、平成23年度後期高齢者医療特別会計補正予算は、特定高齢者臨時調査問診の消耗通信費47万8千円、約2600人分。平成23年度海陽町海南病院事業会計補正予

算は、給料手当等の追加
159万3千円。また繰
越計算書の建設改良費で、
海南病院西側外壁改修予
算230万円で実施する
との報告。審議の結果了
承した。

その他、徳島県・海部
郡・海陽町各遺族会より

戦没者慰霊追悼行事参加
者に児童・生徒を加えて
頂きたいとの要望書は、
教育委員会に付託するこ
ととした。

海陽中学校の教科書採
択についての陳情書は、
当委員会としては、教育
基本法等について審議す
る立場ではなく、不採択
とした。

最後に東日本大震災に
よる津波被害について、
学校の対応、学校の海抜
等につき説明を求めた。

町教育委員会関係は約10
メートル以上の津波であ
れば、非常に問題がある。
今後の方向として高台に
向け避難を検討するとの
説明を受けた。

減額補正。

海陽町自然海洋博物館
の設置及び管理に関する
条例の一部を改正する条
例の主な改正点は、使用
料の改正。

繰越明許費に係る繰越
計算書の報告について、
地域材利用システムモデ
ル施設（まぜのおかコテ
ージ）の整備事業。浅川
橋耐震補強工事は11月か
ら着工。木造住宅耐震事
業の6戸分の受付は終了
し、1戸当たり94万円の
事業費となる。

平成23年度海陽町一
般会計補正予算につい
て。農業振興費補助金
234万7千円、耕地放
棄地解消促進実証事業。
森林整備加速化林業飛躍
事業費3525万円、小
谷から櫛川みのご谷線を
結ぶ中核作業道の整備。
農地費委託料189万円、
工事請負費611万円に
ついては檜ノ瀬地区用水

路改修事業費。急傾斜工
事費235万円、県単急
傾斜崩壊対策事業費で平
成22年度の残工事。

瀬浦漁業協同組合より、
冷蔵施設新設に関する要
望書については、冷蔵施
設の老朽化により、事業
運営に重大な支障を及ぼ
しているとのこと。町長
より「国に向けて積極的
に補助制度に乗るよう努
力する」との答弁をもら
い、全会一致で採択した。
所管の議案について意
義なく了承し閉会した。



町民体育館として耐震補強される（旧海部中学校体育館）

産業建設 常任委員会

委員長 見吉 政貴

6月15日開会。専決処
分の承認を求めることに
ついて。平成22年度一般
会計補正予算は事業精算
した結果減額。公共下水
道事業・集落排水事業・
簡易水道の特別会計補正
予算については、維持管
理費等の事業精算による

平成23年度海陽町一
般会計補正予算につい
て。農業振興費補助金
234万7千円、耕地放
棄地解消促進実証事業。
森林整備加速化林業飛躍
事業費3525万円、小
谷から櫛川みのご谷線を
結ぶ中核作業道の整備。
農地費委託料189万円、
工事請負費611万円に
ついては檜ノ瀬地区用水



リニューアルされ新設「クマノミ館」がオープンしたマリンジャム

議会のうごき

4月1日から6月30日まで

4月

14日 議会広報編集特別委員会
25日 議会広報編集特別委員会

13日 議会運営委員会
14日 文教厚生常任委員会
15日 産業建設常任委員会
15日 全国過疎地域自立促進連盟会(東京都)

16日 第2回定例会
(2日目)
29日 徳島県町村議議長会臨時総会

5月

13日 議会運営委員会
17・18日 第35回議長研修会
(東京都)

19日 全国町村議議長会会長会
(東京都)

20日 第2回臨時会
20日 議会全員協議会
25日 徳島県町村議議長会

27日 海部郡議議長会総会
本部役員会

6月

6日 議会全員協議会
6日 議会運営委員会
13日 第2回定例会(1日目)
13日 総務常任委員会



戦没者慰霊祭で議長弔辞

編集後記

「おめでとう」なでしこジャパン！そして感動をありがとう。

ドイツで開かれたW杯女子サッカーは「がんばろう日本」を合言葉に、日本らしく組織的な戦いで、体格差をはね返し、未だ勝ったことがないアメリカとの決勝戦をPK戦までもつれ込む激闘の末、見事、初優勝を飾った。まさに日本サッカー界、さらなる歴史の幕開けである。世間は福島原発事故の影響で、電力不足が懸念される今年の夏。「節電」が世論のキーワードになっていますが、その半面、「熱中症」も社会的な問題になっています。暑さに弱い高齢者や持病のある人は、過度の節電には特に注意する必要があるとともに、廻りの人たちも弱者に対して、気遣つ心を持ちたいものです。

今後、見直しされる防災計画に対しては、災害ゼロを目指し、皆様が安全・安心して暮らせる町づくりの提案・提起に努めて参ります。議会だよりも、読みやすく分かりやすい広報誌を目指し、毎回進化できるように委員一同頑張つて参りますので、皆様からのご意見、ご要望をお寄せ頂ければ幸いです。

議会広報編集特別委員会
議会事務局 TEL 73-4164

